



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2011年2月1日

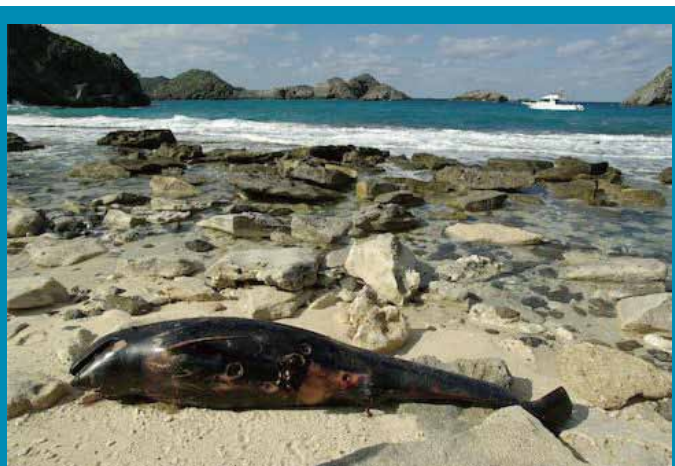
一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「ジョンビーチにストランディング」

鯨類が生きたまま座礁したり、死体が漂着したり、あるいは本来の生息域から離れて河川などに迷入する現象を総称して「ストランディング」と言います。昨年11月の村民便りでも製氷海岸での事例をお伝えしました。そして2011年1月13日夕方、ジョンビーチに鯨類の死体が漂着しているとの情報がOWAに寄せられました。

翌日、調査に必要な道具をカバンへ詰め込み、徒歩で小港からジョンビーチまで向かいました。現場へ到着すると、ゴンドウの仲間と思われる鯨類が横たわっていました。



ジョンビーチに漂着した鯨類の全身写真
全身が黒ずんでいた

外部形態の観察や写真撮影、計測を行ったところ体長260cmのメスの個体で、死後数日は経過しているものと推測されました。現場では食性分析のための胃内容物や鯨種の判定に必要なDNA標本(皮膚)などを採取しました。DNA分析用の標本は日本鯨類研究所に送付し、種同定をお願いする予定です。情報を寄せて下さった皆様、現場での作業に協力して下さいました。

記録がある限りでは小笠原でのストランディングの事例は今回で12例目となります。そしてこのようにストランディングが立て続けに発生したのは初めての例です。ストランディングの原因は様々な説がありつつも、未だに多くの謎を残しており、研究のための情報収集が欠かせません。

今後も漂着した鯨類を発見した際には、OWAまでご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

「イカがお好き？」

先日、OWAにある標本庫を整理していたら、アルコール保存されたイルカの吐き戻し標本ができました。「小笠原のイルカは何を食べているのだろうか？」と前々から思っていたので、標本を戸棚から引っ張り出し、餌の種類を調べ始めました。以前、ミナミハンドウイルカがアオリイカを食べていた事をお伝えしました(イルカ通信 No.009)。どうして種類がわかったのかというと、イカのクチバシを使って調べたからです。イカのクチバシは上下にあり、それぞれ上顎板、下顎板と呼ばれています。



上顎板(ジョウガクバン)と下顎板(カガクバン)の写真
下顎板の矢印の部分計測すると、イカの大きさが分かります

このクチバシ(下顎板)はイカの種類によって形が違います。これを使って種類を調べることが出来るのです。では解析結果の発表です。輝く第一位は・・・

皆さんご存知のアカイカ。吐き戻したクチバシの半数以上は、このアカイカでした。つづいて、第二位はこれもお馴染みアオリイカ。皆さんも口にすることがあるイカが上位を占める結果となりました。そして第三位にはホタルイカモドキという少し聞き慣れないイカの登場です。このイカは中深層に生息しているイカです。今回出現したイカのクチバシの長さを測れば、食べられる前のイカの大きさを推定することができるのです。今回お話しした内容は、少し地味な作業に感じるかもしれませんが、彼らの生態を知る上では、こういった餌の情報も実は重要なのです。

イカのクチバシについてもう少し詳しく知りたい方は国立科学博物館のホームページをご覧ください。

<http://research.kahaku.go.jp/zoology/Beak-v1-3/index.html>



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
e-mail owa@h6.dion.ne.jp

